

## 科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

日 時 平成 22 年 4 月 1 日 ( 木 ) 9 : 30 ~ 10 : 00

場 所 合同庁舎 4 号館 1214 会議室

出席者 津村政務官、相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、今榮議員、青木議員、中鉢議員、金澤議員、藤田統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大石審議官

### 議事概要

#### **議題 1 . 最先端・次世代研究開発支援プログラムについて**

< 日本学術振興会説明 >

( 相澤議員 ) 公募要領等については、この修正どおりとさせていただく。公募開始はいつになるのか。

( 日本学術振興会 ) 来週の月曜に公募を開始し、2 週間後くらいには説明会も開催したいと考えている。

#### **議題 2 . 最先端研究開発支援プログラムについて**

< 二村参事官説明 >

( 白石議員 ) 基本的には、案 2 と案 1 の折衷でいいと思うが、それに加えて、ある一定額を留保しておいて、支援機関が国際会議などを開催し、そこで 30 人の研究者が研究を発表するなどして、国民的にもこのプログラムについて知ってもらう形で支出するというのはどうか。

( 相澤議員 ) そういうフラクションを、このプログラムをビジブルにするためにプールすることとしたい。

案 1 と案 2 について、案 1 は 30 課題すべてに何らかの配分をする、案 2 は全課題には配分しないという理解をすれば、まず、全課題に何らかの配分をするという点を了解いただければ、次に、どう配分するかという議論に切り替えられると思うが、いかがか。

( 奥村議員 ) そういう切り分け方もあるだろうが、前回、私は、資金が現場に行くまでの時間的な早さを重視して案 1 を提案したのであり、短時間で決められるのであれば、案 1 と案 2 の折衷案も十分にあり得る。

( 相澤議員 ) とにかく早く、スピーディーにやるため、改めて難しいプロポーザル方式をとるようなことは止めようというのは合意であると思う。

基本的には全課題に資金が渡ることとし、その中の配分方式として、案 1 では比例配分としているが、そこを案 2 のように、特に機器関係が絡むところで特段の必要性があるものに関しては、単純な比例配分ではなく重みづけをして配分することとし、その案は有識者議員が判定するということではいかがか。

- (本庶議員) 全員に必ず配分するというのを今ここで決める必要はない。今の提案も基本的には案2であるが、その場合に、テーマによっては要らないというものが出てくるかもしれないので、はっきり決めてしまうと窮屈になる。
- (今榮議員) 必ずしもすべての課題に資金が渡るということではなく、ウエートをつけた方がよい。
- (白石議員) 先週の議論は、仮に配分比率を変えると、我々がその説明責任を負うこととなるが、この30課題は優劣をつけない課題なので、その説明は難しいということだった。明らかに追加配分をした方がいい課題があるので、まずそこに重点配分し、説明責任を考えれば、あとは同じ比率で配分した方が無用の誤解が避けられるのではないかと。
- (本庶議員) 日本学術振興会から、トータルが1000億円になる案に加えて、1100億円になる案も来ている。それを参考にしながら、軽重をつけるということであれば、そんなに難しいことではないのではないかと。
- (相澤議員) 案1を考慮しながら、基本的には案2に従い配分することとする。
- (藤田統括官) 留保する一定部分とは、具体的にはどの程度か。
- (白石議員) 仮に国際会議だけであれば、どんなにかかっても5億円あれば十分ではないかと。

(以上)